

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

「自分の思いや願いを実現させていこうとする子」
 ○学力を獲得した知識のみで他に留めるのではなく、自ら学ぶための意欲と能力を加味した指導を実践します。(知)
 ○自分自身を知り、個性を認め合い、考えを尊重し合い、互いに共有していくとする態度を育てます。(徳)
 ○多様な動機付けのもと、食育と体育の両輪による健全な身体力の育成と体力向上を目指します。(体)
 ○発達段階に応じた探究・創造などの体験活動を重視し、「自分たちがつくる社会」について考える姿勢を育てます。(公)
 ○コミュニケーションを通して人と関わりあうにつれて、自分から挨拶する態度を育てます。(開)

**教育課程全体で
育成を目指す資質・能力**

具体化した資質・能力

＜対話する力＞
＜自分づくりに関する力＞

創造力 発信力 言語能力 相手意識
主体性 問題発見・解決能力 レジリエンス ICT

中期取組目標

児童、教職員、保護者、地域住民など、そこに関わるすべての人々が共に学び合い高め合う学校を目指します。

○子どもたち一人ひとりが自分の志をもち、対話を通して自他の違いを認め高め合い、考えを深められる学びを進めます。

○様々な側面から客観的、主観的に自分について知ることから始め、自分の力で道を切り開く力を育てます。

○子どもの意欲を引き出し、思いや願いを粘り強く実現する力を育てます。

○子どもたちの情報リテラシーを高め、ICT教育をより一層推進します。

学力向上アクションプラン

重点取組分野

具体的取組

授業改善 主体的な学び

① 学習で身につける資質・能力に根差した目標を提示し、見通しをもたせることで、一人ひとりが主体的に学習に取り組めるようにする。教材研究に努め、板書計画や活動内容の工夫を行う。② 重点研究のテーマを「自分の考えを表現し、伝え合うことで、対話する力の育成を目指す授業づくり」とし、国語の時間を中心に、自分の考えを豊かに表現できる言語活動を取り入れ、授業の充実を図ることで対話する力を育成していく。様々な場面で、ICTを取り入れていけるようにする。

担当 | 学力向上部会

学力向上に関わる本校の状況

(1) 学力に関わる本校の児童の実態
令和6年度学習状況調査の結果では、全体の学力として、ほとんどの学年において、横浜市の平均と同等、あるいは上回る結果であった。総じて平均よりも、高い学力を身に着けることができている。学習意識については、学年によって大きな差があり、高学年では特に市の平均を下回っている学年が多いことが分かる。



(2)これまでの学校の取組状況
3年生以上の教科担任制や算数の習熟度別少人数指導、朝の読書(さくらんぼ)タイム、英語専科など、継続して取り組んできている。重点研究での国語の授業づくりの研究を通して、基礎基本の学習内容の定着を図るとともに、学年、ブロック、チームでの運営の充実を目指し、日々授業改善に取り組んでいる。

今年度の目標

重点研テーマを「自分の考えを表現し、伝え合うことで、対話する子の育成を目指した授業づくり」とし、対話を目指して、児童が共に学び合い、高め合う子を目指す。

目標を実現するための具体的行動プラン

○3年生以上の一部科別分制中学の3年生の半数における少人数型学習環境、IT指導を活用し、朝学習の時間を充実させたいことを通じて、基礎・基本の定着を図る。

○2年生の取り組み見ると重点研究では、学年に応じて「対話」を目指した、育成した児童の姿を設定し、児童のコミュニケーション力を高め、自己肯定感を上げていくようにする。子ども同士の協力的な学びがびがでる場面を大切に、自ら進んで友達に考えを伝えたいとなるような授業づくりに力を入れる。

○保護者と学校との学習状況や家庭学習の様子などについて、共有する機会をもつようにし、家庭と学校の連携で児童の力を伸ばしていく。

○児童一人一人とが安心し、自分自身の考えを伝えられるような学び環境づくりに努めるとともに、教師の振振り・選りやプログラムなどを通して授業把握を確実にし、適切な支援ができるようにする。

○重点研究や学年研究会、マナー研等を中心に協働した研究や教育を行い、「対話する」姿について理解を高め、協働的な学び、個別最適化の学びを進めることができるようにする。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野

兒童指導
人權教育

具体的取組

「だれもが、安心して、豊かに」生活できる学校をめざし、自分について知るとともに相手意識をもって行動することを十分に価値付け、自分の考えを発信する力や他者の考えに共感する態度を育む。また、異学年交流をすることで、他者にあこがれをもったり気遣ったりするなど、相手意識をもった行動ができるようにする。

担当 豊かな心の育成部全

豊かな心に関わる本校の状況

昨年度の児童学習評価による、1人当たりのお友達を自分から選んでと答えた児童は8割強、1人当たりお友達と協力して学習や活動に取り組んでいると答えた児童は9割を超えている。積極的に他者と関わりあうこと、それをもとに協力し合う気持ちを持つての関わりをすることができ、「友達と一緒に遊ぶこと」「友達と協力して活動すること」が答えた児童は8割弱、「友達と遊ぶこと」を答えた児童は半数以上だったことがあつた。一方で昨年度のいじめ認知は32件と増え、いじめ認知とされた児童の数は1人増えたままだった。

このことから、ほとんどの児童がきなかをもて、友だちと学校生活を送っているとはいるが、トラブルやいじめに2つにわかれてしまっている児童もいるという様子が見て取れる。

今年度の目標

人権的な相手意識を高め、いじめやトラブルを未然に防ぎ、だれもが安心して豊かに学校生活を送ろうとする心情を育てる。

目標を実現するための具体的行動プラン

上
半
期

①「いじめ・暴力行為等防止キャンペーン」併せて、今年2月(6月)～12月(1月)大権教員研修会を取り組む予定。6月内では横浜PT会等と参考しに1人1人の友をなすには1人2人の相手と意思を高めるなど学年・校内に活動内容を充実させる。

②「いじめと全会議」の活動を通して、全校でいじめを未然に防ぐために自分たちができることを考える環境をつくる。

③「特別の教科活動」で系統的に道徳的価値に触れるように、意図に合わせたカリキュラムづくを検討し

④「児童会」が「活動的」なものと異年齢集団活動。より自主的、主体的に行うことができるようにする。

⑤「遠足・校外学習・宿泊体験学習・修学旅行など集団活動の行事を実施し、計画の過程から自主的な取り組みを充実させる。」

⑥「いじめ防止」の防犯教室など警察や外部機関とも連携しながら引きもよめない「暴力行為をなくそう」という意図を高めていく。

⑦「いじめ防止教育、児童理解研修、特別支援研修など教職員の意識もいかに定期的に研鑽する。」

健やかな体の育成プラン

重点取組分野

健康教育
安全教育

具体的取組
「自分の体を知ろう・守ろう・きたえよう〜さくづち大作戦」というスローガンのもと、自分から進んで体育・健康プランに取り組み、授業・休み時間・給食時間等で食育、運動に関する取り組みを進める。そして、よい生活習慣が身に付くよう興味・関心が高まるよう工夫する。「自分の身を自分で守る」という意識が高まるような防災・安全活動を進める。

担当 健やかな体の育成部員

健康な体に関わる本校の状況

(1) 体育の学習について
 体育の学習が好きな児童は多い。その反面、苦手意識をもっている児童もいる。「やってみたい」という気持ちははあるが、一歩踏み出せない児童もいる。できたことに関しては自信をもち、継続して取り組むことができる。

(2)運動状況の実態について
外遊びを促すために、イベントとしてさくらっマラソンやアウトドアビンゴを実施したことで、体力向上の成果が見られた。しかしその取り組みを日常的な習慣として定着させることは課題が残る。

(3) 給食の実態
牛乳・野菜・魚・豆の残食が多い。家庭で食べる機会が少ない様子で、食べ慣れない、食べ方がわからないことが残食の原因として考えられる。栄養が体へ与える効果を知る、食べ方を知る、食材の特性を知ると、食べようとする児童が増える傾向がある。

今年度の目標

「自分の体を知ろう・守ろう・きたえよう～さくらっ子大作戦」というスローガンのもと、日々の生活の中で運動・食・健康に関することを意識し、ともに学び高め合っている学校をめざす。

目標を実現するための具体的行動プラン

上 半 期	(1) 主体的に取り組む体育学習。 タブレット端末などを活用して、客観的に自分自身の状況をつかみ、高めていきたいポイントをつかみ、児童が主体的に取り組む授業を行う。また、できた喜び実感し次につながるようにする。
	(2) 生活に返せる保健学習。
	(3) 児童自身が自分のことを知り、新たな目標をもつ。 新体力テストと生活意識調査の分析結果から、児童の実態と課題を教師側が再認識をする。
	そして、児童自ら、長所や短所を知りこれからの目標をもてるようにする。
	(4) 食育や適切な運動の習慣化。
	(5)「自分の身を自分で守る」防災・安全教育